被災地の現状 記事に

倉吉東高新聞部 陸前高田でボランティア

体験ルポやインタビュー掲載

倉吉東高校（倉吉市下田中町）の新聞部員が岩手県陸前高田市の被災地でボランティア活動をし、活動内容や現地の状況などをまとめた新聞を発行した。16日には学校で生徒に被災地の現状を報告する。

陸前高田市を訪れたのは部長の野崎うみさん(16)、吉川友沙さん(16)、原田留奈さん(16)のいずれも2年生の3人。3月17、18の両日、2人の教師と共に被災地を訪れ、がれき撤去作業などに協力する傍ら町の人を取材し、復興状況を記事にまとめた。

新聞はB4判2ページで、作業のルポやボランティアセンター職員やボランティア参加者へのインタビュー、「立ち上がり始めた被災地の人々」として農産物直売店の様子などを紹介している。ボランティアセンター職員へのインタビューでは、被災者はボランティアの気持ちを支えにしていること、ボランティア参加者とのコミュニケーションが心の傷を癒やしていることなどを取り上げた。

がれき撤去作業のルポでは、がれきの中から出てくる風呂のタイルやボタンなどを目にし、それが被災者にとってはごみではなく、大切な宝物が含まれていることを教えられたこと、ボランティア同士で絆が生まれていく様子などを記した。

野崎さんは「2面だけでは伝えきれないものがあった」と話すが「ボランティアの存在やボランティアがどういうことをしているのかを知り、自ら体験できて良かった」と振り返る。原田さんは「ボランティア個人が取り上げられることは少ないが、ボランティアについて知ることができた。つながりを大切にしていきたいと思った」と話し、3人は「できるならもう一度訪れたい。復興した町の様子も見てみたい」と意欲を見せる。

顧問の竹中孝浩教諭(45)は「本当の意味でのボランティアを経験でき、勉強になった」と話し、吉川さんは16日の報告会に向け「テレビでは伝わらない思いや復興の様子、ボランティアをして得た絆を伝えられたらいい」と話している。

被災地での活動や取材を元に作った新聞を手にする生徒ら

報告体制 徹底を

鳥取県警察署長会議

鳥取県警は12日、県警本部で警察署長会議を開いた。女性2人が殺害された「長崎ストーカー殺人事件」を受け、警察安全相談時の適切な対応方法などについて協議。事態が急転する可能性を考慮し、全職員に報告体制を徹底させることなどを確認した。

本年度初の幹部会議。県警本部の幹部や警察署長ら約60人が出席した。

石田勝彦本部長が訓示し、重点課題に、警察改革の精神のさらなる深化と徹底▽犯罪抑止総合対策と重要犯罪対策の推進▽大規模災害等緊急事態対策の強化▽全国植樹祭に向けた警備対策の推進―の5点を挙げた。

警察安全相談の対応については、各署の事例を基に検討。緊急性の判断が難しいケースでも警察官個人で判断せず、情報を署長まで到達させる体制をつくり、被害者にも事件の危険性について十分に大量退職期を見据え、現場執行力と若手への指導力強化を重視し、組織中核にあたる警部

訓示に注意深く耳を傾ける警察署長ら＝12日、鳥取県警本部

一筆啓上

世界で大きな地震が相次いでいる。スマトラ島では、津波で甚大な被害が出た2004年の地震との関連を示唆する人もあり、日本でも東日本大震災後に続く大地震が懸念されている。

県が公表した津波浸水予測図の浸水域、または浸水域から1キロメートル以内の県内小・中・高校、特別支援学校は全部で50校。11年度の津波対応避難訓練は6割強の学校で実施されてはいるが、まだ十分ではない。北朝鮮の人工衛星と称されるミサイル発射も近い。学校だけではなく、地域でも身を守る防災教育が重要になる。

（石原美樹）

交通事故

（12日午前10時現在）

鳥取県	本年累計	件数	388	（456）
		死者	6	（9）
		傷者	458	（560）
島根		件数	471	（452）
		死者	10	（6）
		傷者	542	（515）

（カッコ内は昨年の数）